



シノブフーズ株式会社

証券コード 2903

# 第53期 定時株主総会 招集ご通知

**日時** 2023年6月22日（木曜日）  
午前11時

**場所** 大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号  
当社 本社1階ホール  
(末尾の会場ご案内図をご参照ください。)

## 目次

● 第53期定時株主総会招集ご通知	1
● 事業報告	5
● 連結計算書類	24
● 計算書類等	33
● 監査報告書	41
● 株主総会参考書類	47
第1号議案 剰余金処分の件	
第2号議案 取締役2名選任の件	
第3号議案 監査役3名選任の件	
第4号議案 補欠監査役2名選任の件	

証券コード 2903  
2023年6月1日  
(電子提供措置の開始日2023年5月30日)

株 主 各 位

大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号  
**シノブフーズ株式会社**  
代表取締役社長 松本 崇志

## 第53期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第53期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトに「第53期定時株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

【当社ウェブサイト】

(<https://www.shinobufoods.co.jp/ir/news.html>)

また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

【東証ウェブサイト】

(<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>)

上記の東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスして、当社名または証券コードを入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/P R情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

書面またはインターネットによる議決権の事前行使いただくことができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、後述のご案内に従って2023年6月21日（水曜日）午後6時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年6月22日（木曜日）【午前11時】

2. 場 所 大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号

当社 本社 1階ホール（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）

3. 目的事項  
報告事項

- 1.第53期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
- 2.第53期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 取締役2名選任の件
- 第3号議案 監査役3名選任の件
- 第4号議案 補欠監査役2名選任の件

以 上

**■議決権の行使についてのご案内****(1) 書面による議決権行使の場合**

同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2023年6月21日（水曜日）午後6時までには到着するようにご返送ください。議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

**(2) インターネットによる議決権行使の場合**

インターネットにより議決権を行使される場合には、後述の「インターネットによる議決権行使のご案内」をご高覧の上、2023年6月21日（水曜日）午後6時までに行使してください。

■当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。また、資源節約のため、本招集ご通知を当日会場までご持参くださいますようお願い申し上げます。

■当日、総会開始前は受付が大変込み合いますのでお早目のご来場をお願いいたします。

また、当社ではノーネクタイの「フールビズ」にて対応させていただきますので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

■電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにて修正内容を掲載させていただきます。

## 新型コロナウイルス感染症への対応について

**【ご来場される株主様へのお願い】**

- 株主総会へのご来場につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行状況やご自身の健康状態をご考慮の上、体調がすぐれない場合はご無理をなさらず、ご来場を見合わせていただきますようお願い申し上げます。
- 会場でのマスク着用につきましては、株主様のご判断とさせていただきます。  
なお、感染拡大の状況により、マスクの着用等ご協力をお願いする場合がございますので、ご理解いただけますようお願いいたします。
- 当日は、入口に検温器、アルコール消毒液を配置いたします。
- 開会直前は大変込み合いますので、総会開始時刻20分前までのご来場をお願いいたします。
- 今後の状況により株主総会の運営に大きな変更が生ずる場合は、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。（当社ウェブサイト <https://www.shinobufoods.co.jp/>）

**【当社の対応】**

- 当社スタッフは、検温をはじめ体調管理を確認したうえ、マスクを着用して対応させていただきます。

# インターネットによる議決権行使のご案内

インターネットにより議決権を行使される場合は、あらかじめ次の事項をご了承いただきますようお願い申し上げます。

## 1. 議決権行使ウェブサイトについて

インターネットによる議決権行使は、当社の指定する以下の議決権行使ウェブサイトをご利用いただくことによつてのみ可能です。

**議決権行使ウェブサイトアドレス <https://www.web54.net>**

## 2. 議決権行使の方法について

### (1) パソコンをご利用の方

上記アドレスにアクセスいただき、同封の議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」および「パスワード」をご利用になり、画面の案内に従って賛否をご入力ください。

### (2) スマートフォンをご利用の方

同封の議決権行使書用紙に記載された「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」を読み取りいただくことにより、「議決権行使コード」および「パスワード」が入力不要のスマートフォン用議決権行使ウェブサイトから議決権を行使できます。

なお、一度議決権を行使した後で行使内容の変更をされる場合には、再度QRコードを読み取り、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」および「パスワード」を入力いただく必要があります。  
(なお、QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。)

## 3. 議決権行使のお取り扱いについて

(1) 議決権の行使期限は2023年6月21日(水曜日)午後6時までとなっておりますので、お早目の行使をお願いいたします。

(2) 書面とインターネットにより、重複して議決権を行使された場合は、インターネットによるものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネットによって複数回、重複して議決権を行使された場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。

(3) 議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際のプロバイダおよび通信事業者の料金(接続料金等)は、株主様のご負担となります。

(4) パソコンやスマートフォンのインターネットのご利用環境等によっては、議決権行使ウェブサイトがご利用できない場合があります。

## 4. パスワードおよび議決権行使コードのお取り扱いについて

(1) パスワードはご投票される方が株主様ご本人であることを確認するための重要な情報です。印鑑や暗証番号同様、大切にお取り扱いください。

(2) パスワードは一定回数以上間違えると使用できなくなります。パスワードの再発行をご希望の場合は、画面の案内に従ってお手続きください。

(3) 議決権行使書用紙に記載されている議決権行使コードは、本総会に限り有効です。

## 5. パソコン等の操作方法に関するお問い合わせ先について

(1) 本サイトでの議決権行使に関するパソコン等の操作方法がご不明な場合は、下記にお問い合わせください。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル  
[電話] 0120 (652) 031 (受付時間 9:00~21:00)

(2) 其他のご照会は、以下の問い合わせ先をお願いいたします。

- ① 証券会社に口座をお持ちの株主様  
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- ② 証券会社に口座のない株主様（特別口座の株主様）  
三井住友信託銀行 証券代行部  
[電話] 0120 (782) 031 （受付時間 9：00～17：00 土日休日を除く）

以 上

# 事業報告

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 当連結会計年度の事業の状況

#### ① 企業集団の事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による悪化から持ち直しの動きがみられるものの、ウクライナ情勢に起因した資源価格の上昇や、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクなど依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは中食業界に属し、主要な取引先であるコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ドラッグストア等へ弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等を製造卸販売しており、当社グループを取り巻く環境は、コロナ禍における消費者需要の変化への対応が求められる中、原材料やエネルギー価格の高騰等、引き続き厳しい状況が続いております。

こうした状況下、当社グループは、「良品づくり」のさらなるレベルアップをめざす5カ年計画をテーマとした中期経営計画（2021年3月期～2025年3月期）を策定し、4つの基本戦略、「販売戦略」、「コスト戦略」、「人材戦略」、「環境戦略」に基づき目標達成に向け取り組んでおります。

販売面では、今後ますます需要が見込まれる冷凍弁当や冷凍惣菜、冷凍おせちの製造など冷凍事業の拡大を図りました。2023年2月に幕張メッセで行われた「スーパーマーケット・トレードショー2023」へ出展し、冷凍弁当をはじめとする冷凍事業の商品や新商品である「具っしり太巻」の紹介など、新規カテゴリーの商談や新規取引先の開拓、これまでとは異なる業態のお客さまとの繋がりなど、継続して販売力の強化に取り組ましました。

開発面では「家庭の味」にこだわり、製造開始からお客様のもとに届くまでの鮮度を高めることにより、商品価値の向上による他社との差別化を図り、また、原材料の高騰を見据えた商品規格の見直しや新商品の提案を積極的に行いました。

生産面では、政府のガイドラインに基づいた新型コロナウイルス感染症防止対策に取り組むとともに、従来からの衛生管理に加え、生産管理部や購買部の工場巡回を通し、食に携わる企業としての責任を全うするため、「良品づくり」に向けた課題の解決や業務の改善に取り組んでおります。また大阪工場では炊飯設備を入替え、舎利の美味しさや品質向上に努めました。

コスト面では、人員不足による労働コストの増加や、原材料やエネルギー価格の高騰等が続いておりますが、これらを吸収するべく主要食材の調達方法の見直し、調理加工品アイテム数の削減や機械化による品質及び生産性の向上、各工場間での横断的な製造経費の見直しに取り組ましました。

人財面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための社内ルールを周知徹底し、従業員の健康管理に努めつつ、W E Bを活用した職種別の会議体や勉強会を継続し、スキルの向上や組織力の強化と均一化に取り組みました。

環境面では、プラスチック使用量を削減するため、軽量化した発泡素材容器への切換えを進め、また廃棄物を削減するため、関西工場、京滋工場、四国工場に生ごみ処理機を設置し、さらに四国工場に太陽光発電設備を設置するなど、脱炭素社会の実現に向け、省エネ・再エネの推進と環境負荷の軽減に取り組みました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は前期比23億9千3百万円増の510億4千7百万円、経常利益は前期比3億6千4百万円増の19億4百万円、大阪工場の減損損失を14億7千3百万円計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比9億7千7百万円減の1億3百万円となりました。

## ② 企業集団の設備投資の状況

当連結会計年度に実施した設備投資の総額は11億8千3百万円であり、その主なものは、既存工場における増産及び生産性向上のための合理化投資であります。なお、生産能力に重要な影響を及ぼす固定資産の売却・撤去または滅失はありません。

## ③ 企業集団の資金調達の状況

当連結会計年度において、設備投資など事業活動に必要な資金は、自己資金及び金融機関からの借入金等により調達いたしました。その他の増資または社債発行による資金調達は行っておりません。

## (2) 企業集団の財産及び損益の状況

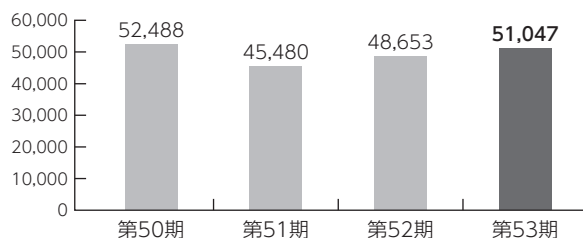
(単位：百万円)

区 分 \ 期 別	第 50 期 (2020年 3月期)	第 51 期 (2021年 3月期)	第 52 期 (2022年 3月期)	第 53 期 (2023年 3月期)
売 上 高	52,488	45,480	48,653	51,047
経 常 利 益	1,263	1,110	1,540	1,904
親会社株主に帰属する当期純利益	1,093	791	1,081	103
1 株当たり当期純利益	88円19銭	63円62銭	87円21銭	8円33銭
総 資 産	29,978	30,350	30,941	30,381
純 資 産	12,796	13,425	14,190	14,031
1 株当たり純資産額	1,019円29銭	1,066円55銭	1,142円21銭	1,125円61銭

- (注) 1. 百万円単位の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出、また1株当たり純資産額は、期末発行済株式総数に基づき算出し、銭未満を四捨五入して表示しております。  
 3. 当連結会計年度の状況につきましては、前記「1. 企業集団の現況に関する事項 (1) 当連結会計年度の事業の状況 ① 企業集団の事業の経過及び成果」に記載のとおりであります。  
 4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第52期の期首から適用しており、第51期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

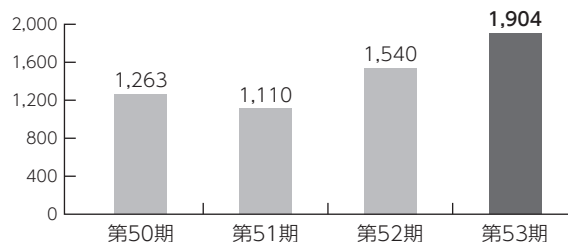
### 売上高

(単位：百万円)



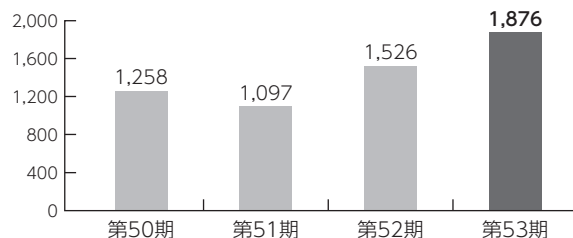
### 経常利益

(単位：百万円)



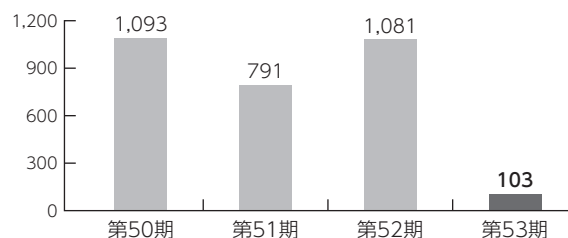
### 営業利益

(単位：百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)





### (3) 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社エス・エフ・ディー	10百万円	100%	不動産の賃貸
マイツベーカーリー株式会社	10百万円	70%	原材料の仕入、販売

### (4) 対処すべき課題

#### 【経営理念】

『おいしさと楽しさ』をモットーに、消費者ニーズに応える商品づくりを通じ、健康で豊かな食文化の向上に貢献し、顧客、取引先、社会に信頼され、そして従業員、株主、企業それぞれが充足することをめざしてまいります。

#### 【中期経営計画】

当社グループは、「良品づくり」のさらなるレベルアップをめざす5カ年計画をテーマとし、「販売戦略」「コスト戦略」「人財戦略」「環境戦略」を基本戦略とする、中期経営計画（2021年3月期～2025年3月期）を策定し、連結売上高550億円、経常利益率3.3%（「収益認識に関する会計基準」適用後）を目指しており、計画達成に向け活動を進めております。

#### ①販売戦略

当事業年度は、冷凍おせちや冷凍惣菜をはじめとする冷凍事業の拡大に努め、2023年2月に開催された「スーパーマーケット・トレードショー2023」に初出展し、お取引関係の方々をはじめ、多くのお客様から好評を博し、当社の商品力をアピールすることができました。また、製造開始からお客様のもとに届くまでの鮮度を高めることによる商品価値の向上により、他社との差別化、既存取引先様との深耕を図り、売上高は堅調に推移いたしました。

今後は、冷凍事業のさらなる拡大、おいしさや鮮度にこだわった良品づくりに挑み、取引先様、お客様から評価される商品づくりに注力してまいります。

#### ②コスト戦略

当事業年度は、原材料やエネルギーコストの高騰等が続くなか、これらを吸収するべく、購買部による主要食材の調達方法の見直しの継続、原材料の高騰を見据えた新商品の提案、また原材料のアイテム集約を積極的に行いました。また省エネ効果の高い生産設備の導入、生産工程の整備と人員配置の最適化を図り、生産効率の向上と各工場横断的な製造経費の見直しに取り組みしました。

今後は、調達方法の見直しの継続や引き続き高騰が見込まれる原材料への対策を行っていくとともに、省エネ効果の高い生産設備の導入や生産効率の向上に努め、質の良い商品の提供とコストアップの吸収を図ってまいります。

### ③人財戦略

当事業年度は、コロナ禍において感染拡大防止に向けた従業員の健康管理に努めつつ、WEBによる研修を中心に階層別研修や昇格者研修、中堅社員研修を行い、また職種別勉強会を通じ、スキルの向上や組織力の強化に取り組みました。

今後は、さまざまな人財を資源としてとらえ、階層別研修の体系化や職種別勉強会の継続に加え、女性活躍推進に向けた女性幹部候補者研修を行うとともに、風通しの良い組織づくりをめざし、働きやすい職場環境整備とコンプライアンス研修による法令遵守の風土を醸成してまいります。

### ④環境戦略

当事業年度は、軽量化した発泡素材容器の拡充や、紙包材を使用したサンドイッチの販売など、商品づくりにおける積極的な環境負荷の軽減を継続して取り組むとともに、四国工場においては太陽光発電設備を導入し、また全工場で廃棄物削減への取り組みを行いました。

今後は、サステナブルな社会の実現に貢献するため、引き続き廃棄物の排出量削減や廃棄物処理設備の導入、環境に配慮した包装資材のさらなる活用、フードロスの削減に向けたフードバンクの活用拡大など、SDGsを意識した環境負荷の軽減に努めてまいります。

以上により、第54期（2024年3月期）は連結売上高515億円、営業利益19億円、経常利益19.2億円、親会社株主に帰属する当期純利益12.8億円を見込んでおります。

## (5) 主要な事業内容（2023年3月31日現在）

当社の主な事業内容は、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の製造卸販売であります。

**(6) 主要な事業所** (2023年3月31日現在)

本 社	大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号
工 場	
大 阪 工 場	大阪市西淀川区福町1丁目9番16号
関 西 工 場	大阪市西淀川区御幣島6丁目14番36号
京 滋 工 場	滋賀県栗東市六地藏1163
千 葉 工 場	千葉県八千代市上高野1734番1
名 古 屋 工 場	愛知県弥富市四郎兵衛1丁目128番地
岡 山 工 場	岡山県総社市中原字巽原88番の2
広 島 工 場	広島県尾道市美ノ郷町本郷20001番地65
四 国 工 場	香川県観音寺市柞田町字干拓丁93番7号

## 事業所

東 京 事 業 所 東京都大田区蒲田5丁目42番6号 蒲田ハイツ201号

## 子会社

株式会社エス・エフ・ディー 大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号

マイツパーカー株式会社 大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号

**(7) 使用人の状況** (2023年3月31日現在)

## ① 企業集団の使用人の状況

使 用 人 数	前連結会計年度末比増減
528名 (2,163)名	+7名 (+72)名

(注) 使用人数は、就業人員数であり、アルバイト従業員数は、( ) 内に1日8時間労働換算の期中平均雇用人員数を記載しております。

## ② 当社の使用人の状況

使 用 人 数	前事業年度末比増減	平 均 年 齢	平 均 勤 続 年 数
528名 (2,163)名	+7名 (+72)名	40.2才	9.3年

(注) 使用人数は、就業人員数であり、アルバイト従業員数は、( ) 内に1日8時間労働換算の期中平均雇用人員数を記載しております。

**(8) 主要な借入先の状況 (2023年3月31日現在)**

借 入 先	借 入 額
三井住友信託銀行株式会社	2,568 百万円
株式会社三菱UFJ銀行	2,418
株式会社三井住友銀行	1,065
株式会社みずほ銀行	1,024

**(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項**

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2023年3月31日現在)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 45,656,000株 |
| ② 発行済株式総数  | 13,500,000株 |
| ③ 当期末株主数   | 7,654名      |
| ④ 大株主      |             |

株 主 名	持 株 数 株	持 株 比 率 %
株 式 会 社 エ ム	997,000	8.04
松 本 隆 次	697,000	5.62
佐 々 木 真 司	694,000	5.60
松 本 恵 美 子	538,000	4.34
松 本 龍 也	461,529	3.72
シノブフーズ取引先持株会	421,087	3.40
松 本 崇 志	369,374	2.98
三井住友信託銀行株式会社	242,000	1.95
吉 田 知 広	200,100	1.61
シノブフーズ従業員持株会	190,896	1.54

(注) 持株比率は自己株式 (1,106,589 株) を控除して計算しております。

## (2) 新株予約権等に関する事項

①当事業年度末日において当社役員が保有する職務執行の対価として交付した新株予約権の状況

名称	シノブフーズ株式会社 2022年度第1回新株予約権
発行決議の日	2022年6月23日
新株予約権の数	640個
保有人数 当社取締役（社外役員を除く）	4名
新株予約権の目的となる株式の種類及び数	当社普通株式64,000株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額	54,600円（新株予約権1個当たり）
新株予約権の行使価額	1株当たり1円
新株予約権の行使期間	2025年7月1日から2028年6月30日まで
新株予約権の行使条件	<p>1. 当社が策定した中期経営計画の目標である2025年3月期（第55期）の連結売上高550億円（以下、「業績目標A」という。）、連結経常利益率3.3%（以下、「業績目標B」という。）に対して、新株予約権の行使可能割合を以下のとおり定める。</p> <p>イ 業績目標A及び業績目標Bのいずれも達成率が100%以上の場合 各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権（以下、「割当新株予約権」という。）の行使可能割合：100%</p> <p>ロ 業績目標A又は業績目標Bのいずれかの達成率が100%以上、かつもう一方の業績目標の達成率が95%以上の場合（上記イに該当する場合を除く。） 割当新株予約権の行使可能割合：75%</p> <p>ハ 業績目標A又は業績目標Bのいずれかの達成率が95%以上の場合（上記イ及びロに該当する場合を除く。） 割当新株予約権の行使可能割合：50%</p> <p>ニ 上記イ、ロ及びハのいずれにも該当しない場合 割当新株予約権の行使可能割合：0%</p> <p>なお、計算の結果1個に満たない新株予約権の端数が生じた場合には、これを四捨五入するものとし、権利行使可能分以外の割当新株予約権は失効することとする。</p> <p>連結売上高及び連結経常利益率の判定においては、当社の有価証券報告書に記載された連結売上高及び連結経常利益を参照するものとする。ただし、適用される会計基準の変更等により参照すべき連結売上高又は連結経常利益の概念に重要な変更があった場合には、会社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標を取締役会にて定めるものとする。</p>

新株予約権の行使条件	2. 新株予約権者は、権利行使時において、当社の取締役、執行役員又は従業員のいずれかの地位にあることを要する。その他の新株予約権の行使条件については、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。
------------	--

(注) 払込金額に基づく債務は、当社に対する報酬債権と相殺され、金銭の払込みはありません。

②当事業年度中に当社使用人に職務執行の対価として交付した新株予約権の状況

名称	シノプフーズ株式会社 2022年度第1回新株予約権
発行決議の日	2022年6月23日
新株予約権の数	1,520個
交付された者の人数 当社使用人	56名
新株予約権の目的となる株式の種類 及び数	当社普通株式152,000株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額	54,600円（新株予約権1個当たり）
新株予約権の行使価額	1株当たり1円
新株予約権の行使期間	2025年7月1日から2028年6月30日まで
新株予約権の行使条件	<p>1. 当社が策定した中期経営計画の目標である2025年3月期（第55期）の連結売上高550億円（以下、「業績目標A」という。）、連結経常利益率3.3%（以下、「業績目標B」という。）に対して、新株予約権の行使可能割合を以下のとおり定める。</p> <p>イ 業績目標A及び業績目標Bのいずれも達成率が100%以上の場合 各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権（以下、「割当新株予約権」という。）の行使可能割合：100%</p> <p>ロ 業績目標A又は業績目標Bのいずれかの達成率が100%以上、かつもう一方の業績目標の達成率が95%以上の場合（上記イに該当する場合を除く。） 割当新株予約権の行使可能割合：75%</p> <p>ハ 業績目標A又は業績目標Bのいずれかの達成率が95%以上の場合（上記イ及びロに該当する場合を除く。） 割当新株予約権の行使可能割合：50%</p> <p>二 上記イ、ロ及びハのいずれにも該当しない場合 割当新株予約権の行使可能割合：0%</p>

新株予約権の行使条件	<p>なお、計算の結果1個に満たない新株予約権の端数が生じた場合には、これを四捨五入するものとし、権利行使可能分以外の割当新株予約権は失効することとする。</p> <p>連結売上高及び連結経常利益率の判定においては、当社の有価証券報告書に記載された連結売上高及び連結経常利益を参照するものとする。ただし、適用される会計基準の変更等により参照すべき連結売上高又は連結経常利益の概念に重要な変更があった場合には、会社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標を取締役会にて定めるものとする。</p> <p>2. 新株予約権者は、権利行使時において、当社の取締役、執行役員又は従業員のいずれかの地位にあることを要する。その他の新株予約権の行使条件については、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。</p>
------------	---

(注) 払込金額に基づく債務は、当社に対する報酬債権と相殺され、金銭の払込みはありません。

名称	シノプフーズ株式会社 2022年度第2回新株予約権
発行決議の日	2022年6月23日
新株予約権の数	749個
交付された者の人数 当社使用人	411名
新株予約権の目的となる株式の種類 及び数	当社普通株式74,900株（新株予約権1個につき100株）
新株予約権の払込金額	54,600円（新株予約権1個当たり）
新株予約権の行使価額	1株当たり1円
新株予約権の行使期間	2025年7月1日から2028年6月30日まで
新株予約権の行使条件	新株予約権者は、権利行使時において、当社の取締役、執行役員又は従業員のいずれかの地位にあることを要する。その他の新株予約権の行使条件については、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

(注) 払込金額に基づく債務は、当社に対する報酬債権と相殺され、金銭の払込みはありません。



## (3) 会社役員に関する事項

## ① 取締役及び監査役の氏名等 (2023年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役 社長執行役員	松 本 崇 志	
代表取締役 副社長執行役員	西 村 寿 清	CVS事業担当兼CVS営業本部長 マイツペーカリー株式会社 代表取締役社長
取締役 常務執行役員	清 水 秀 輝	管理本部長
取締役 執行役員	長 尾 正 史	管理本部副本部長 株式会社エス・エフ・ディー 代表取締役社長
取 締 役	加 藤 道 彦	
取 締 役	中 野 由 里	スプラウト税理士事務所 代表 株式会社スプラウトビーンズ 代表取締役
監 査 役 ( 常 勤 )	大 塚 一 樹	
監 査 役	野 村 祥 子	堂島法律事務所 弁護士 株式会社島精機製作所 社外取締役 (監査等委員) 株式会社神戸物産 社外取締役 (監査等委員) 株式会社ビーアンドピー 社外監査役
監 査 役	南 方 得 男	みなかた公認会計士事務所代表

- (注) 1. 取締役加藤道彦及び中野由里の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
2. 監査役野村祥子及び南方得男の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
3. 当社は、取締役加藤道彦、同中野由里、監査役野村祥子、同南方得男の4氏を株式会社東京証券取引所の規程に定める独立役員として同取引所に届け出ております。  
4. 取締役中野由里氏は、税理士の資格を有しており、会計及び税務に関する相当程度の知見を有するものであります。  
5. 監査役大塚一樹氏は、大手金融機関に長年勤務し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。  
6. 監査役野村祥子氏は、弁護士の資格を有しており、法務に関する相当程度の知見を有するものであります。  
7. 監査役南方得男氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。  
8. スプラウト税理士事務所と当社との間には、取引関係はありません。  
9. 株式会社スプラウトビーンズと当社との間には、取引関係はありません。  
10. 堂島法律事務所と当社との間には、取引関係はありません。  
11. 株式会社島精機製作所と当社との間には、取引関係はありません。  
12. 株式会社神戸物産と当社との間には、製品販売等の取引関係があります。  
13. 株式会社ビーアンドピーと当社との間には、取引関係はありません。  
14. みなかた公認会計士事務所と当社との間には、取引関係はありません。  
15. 取締役中野由里氏は、戸籍上の氏名は松田由里であります。職務上使用している氏名で表記しております。

② 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役及び監査役と、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償限度額は法令が定める最低責任限度額であります。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる訴訟費用及び損害賠償金の損害を当該保険契約により填補することとしております。当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社の取締役、監査役及び執行役員であり、すべての被保険者について、その保険料を全額会社が負担しております。なお、被保険者の職務執行に関して悪意又は重大な過失があったことに起因する場合、若しくは当該契約において保険会社が免責されるべき事由として規定されている事由のある場合には保険が適用されないこととするなど、会社役員の職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置を講じております。

④ 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

1. 基本方針

当社の取締役の報酬は、取締役として経営理念を実践し、責務を全うできる、優秀な人材を確保できる水準とし、企業としての継続的成長のため、業績向上へのインセンティブとして機能する制度、株主をはじめ当社を取り巻くステークホルダーに対し、客観性、透明性の高い手続きの構築を目指すことを基本方針としています。

具体的には、固定報酬としての基本報酬、業績連動報酬（何れも金銭報酬）および中期経営計画の達成度合いによって不定期に支給する株式報酬型ストックオプションによって構成しています。

2. 基本報酬の個人別報酬等の額の決定に関する方針

当社は、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を指名報酬委員会の提言に基づき取締役会で決定しております。当社の取締役の基本報酬は、月例の固定報酬（金銭報酬）とし、役位、職責に応じて第三者機関の調査結果などの他社水準を参考にし、当社の業績、従業員給与の水準も考慮しながら、総合的に勘案して決定するものとしています。

3. 業績連動報酬等の額の決定に関する方針

業績連動報酬は、企業の継続的成長を計る指標として、各事業年度の事業規模を表す売上高と会社の収益力を表す経常利益をそれぞれ前年と目標値に対する達成度合いによって点数化し、コンプライアンスの遵守状況や働きやすい職場づくりなどの項目を合わせて採点し、毎年、一定の時期に金銭報酬として支給します。各事業年度の売上高、経常利益の額は「1. 企業集団の現況に関する事項（2）企業集団の財産及び損益の状況」に記載のとおりであります。

採点項目に関しては、環境の変化に応じて適宜、独立社外取締役を委員長とする指名報酬委員会にて見直しを行うものとしています。

4. 非金銭報酬等の額の決定に関する方針

非金銭報酬は、株式報酬とし、中期経営計画の達成度合いを勘案し、算定方法の決定については、適宜行うものとしています。

5. 取締役の個人別報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

取締役の報酬等の種類ごとの比率の目安は、基本報酬：業績連動報酬＝7：3で設計しており、株式報酬型ストックオプションは、中期経営計画の達成度合いによって不定期に支給するため、各年度の株式報酬型ストックオプションを含めた割合は変動いたします。

6. 取締役の個人別報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当社においては、2020年2月18日開催の取締役会にて独立社外取締役を委員長とする指名報酬委員会に取締役の個人別の具体的内容の決定を委任する旨の決議をしています。その権限の内容は、各取締役の基本報酬の額及び各取締役の担当を踏まえた業績連動報酬の評価配分であり、これらの権限を委任した理由は、報酬等の妥当性や決定プロセスの客観性及び透明性を担保するには最も適しているからであります。

取締役の個人別報酬等の内容の決定にあたっては、指名報酬委員会が決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行い、委員の過半数にて決定し、可否同数の場合は独立社外取締役である委員長が決しているため、取締役会も基本的にその決定を尊重し、決定方針に沿うものであると判断しております。

(指名報酬委員会構成員の氏名、地位および担当)

委員長 加藤道彦 (社外取締役)、委員 中野由里 (社外取締役)、委員 松本崇志 (代表取締役社長執行役員)、委員 清水秀輝 (取締役常務執行役員 管理本部長)

⑤ 取締役及び監査役の報酬等の総額

区 分	支給人員	基本報酬	賞与	株式報酬型 ストック オプション	計
	名	百万円	百万円	百万円	百万円
取 締 役	7	124	27	8	161
(うち社外取締役)	(2)	(8)	—	—	(8)
監 査 役	3	17	—	—	17
(うち社外監査役)	(2)	(5)	—	—	(5)
合 計	10	141	27	8	178

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、2012年6月28日開催の第42期定時株主総会において、年額280百万円以内と決議されており、当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は6名です。
2. 監査役の報酬限度額は、2006年6月29日開催の第36期定時株主総会において、年額36百万円以内と決議されており、当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は3名です。
3. 株式報酬型ストックオプションは、「シノプフーズ株式会社 2022年度第1回新株予約権」であり、内容は「(2)新株予約権等に関する事項」に記載のとおりです。なお、上記の株式報酬型ストックオプションの額は、当事業年度において株式報酬費用として計上した額であります。
4. 取締役としての支給のほかには、使用者給与の支給を受けている取締役はおりません。

⑥ 社外役員に関する事項  
 当事業年度における主な活動内容

地 位	氏 名	取締役会及び 監査役会出席回数	活動状況
取締役	加藤 道彦	取締役会 14回/14回	会社経営に携わられてきた豊富な経験と大学院教授の経験・見地に基づき、独立した立場から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を適宜行っており、経営に対する実効性の高い監督の実現に寄与しております。また、指名報酬委員会委員長を務めました。
	中野 由里	取締役会 14回/14回	税理士及び経営コンサルタントとしての豊富な経験から適宜発言を行うなど、経営に対する実効性の高い監督の実現に寄与しております。また、指名報酬委員会委員を務めました。
監査役	野村 祥子	取締役会 14回/14回	弁護士として豊富な経験や専門的見地に基づき、取締役会及び監査役会において適宜必要な発言を行っております。
		監査役会 13回/13回	
	南方 得男	取締役会 14回/14回	公認会計士として豊富な経験や専門的見地に基づき、取締役会及び監査役会において適宜必要な発言を行っております。
		監査役会 13回/13回	

(注) 1. 上記の取締役会の開催回数のほか、会社法第370条に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が4回ありました。

(注) 2. 重要な兼職先と当社との関係につきましては、「①取締役及び監査役の氏名等」に記載のとおりであります。

#### (4) 会計監査人の状況

- ① 名 称 有限責任監査法人トーマツ
- ② 報酬等の額

	支払額
1. 当事業年度にかかる会計監査人の報酬等の額	25百万円
2. 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	25百万円

(注) 1. 監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人監査計画の適切性・妥当性及び報酬見積の相当性などについて必要な検討を行ったうえで、会計監査人の報酬等につき会社法第399条第1項の同意を行っております。

2. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分することが困難なため、当事業年度にかかる報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

#### ③ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項に定める解任事由のいずれかに該当すると判断した場合には、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。また、会計監査人がその職務を適正に遂行することができないと認められる場合、または会計監査の適正性及び信頼性を高めるために会計監査人の変更が妥当であると判断される場合には、監査役会は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

#### ④ 責任限定契約の内容の概要

当社は、会計監査人と会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める限度であります。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

当社が2017年6月20日開催の取締役会の決議をもって改定し、運用した「内部統制システム構築の基本方針」は以下の通りです。

- ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  1. 「シノブグループ行動憲章」、「シノブグループコンプライアンスに関する基本方針」を周知し、全ての取締役及び使用人への法令遵守の徹底をはかります。
  2. 内部監査部門は、内部監査規程に基づき監査役等と連携をはかりながら、内部統制の評価ならびに業務の適正及び有効性について、グループ全体の監査を行います。
  3. 内部通報制度により、「シノブグループコンプライアンスに関する基本方針」等に違反する行為またはそのおそれのある行為について、通報を受けるとともに、通報を理由に不利益な取り扱いを受けないよう通報者を保護します。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
「文書取扱規程」にしたがって、取締役の職務の執行に係る情報について、適切に保存及び管理を行うとともに秘密保持に努めます。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  1. 当社は、リスク管理について定める「リスク管理規程」にしたがって、リスクの未然防止のために管理体制を整備するとともに、重大リスク発生における対応を的確に行い、企業価値の保全をはかります。
  2. リスク管理委員会では、リスクの識別、評価を行い、重点リスクへの対応方針を決定し、その取り組みを行います。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  1. 取締役会が定めた中期経営計画に基づき、年度計画を策定し、執行役員等で構成される経営会議において業績の進捗を管理し、取締役会へ報告しています。
  2. 当社は執行役員制度を導入し、業務執行における責任の明確化と意思決定の迅速化をはかります。
- ⑤ 子会社における業務の適正を確保するための体制  
子会社の取締役等の職務の執行に係る当社への報告に関する体制、損失の危機の管理に関する規程その他の体制、子会社の取締役等の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制のそれぞれを整備するため、当社の取締役会において子会社のモニタリングを行い、子会社の事業に関する重要な情報について取締役会に報告することを求めており、必要に応じて子会社に対する指導を行っております。

- ⑥ 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項及び監査役の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
1. 当社では、現在、監査役の職務を補助すべき使用人は配置しておりませんが、監査役から求めがあった場合には、監査部門の人材を配置します。
  2. 監査役は、職務遂行上において必要な場合、当該使用人に対して取締役から独立させて業務の補助を行うよう指示できるものとします。
  3. また、当該使用人の人事については、事前に監査役と協議を行います。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制ならびに報告した者がそれを理由として不利益な取り扱いを受けないことを確保する体制
1. 監査部は、内部監査の結果を監査役に報告します。
  2. 会社に著しい損害をおよぼすおそれのある事態が発生した場合は、取締役及び使用人は監査役に速やかに報告します。
  3. 取締役の職務執行に関して、不正行為、法令・定款に違反する重大な事実が発生する可能性、もしくは発生した事実を報告します。
  4. 内部通報制度に基づき通報された事実を報告します。
  5. 当社は、上記に係る報告を行ったグループの取締役及び使用人に対し、当該報告を行ったことを理由として不利な取り扱いを行わない旨を規程に定めています。
- ⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
1. 監査役が必要とした場合には、外部専門家（弁護士、会計士など）との連携をはかるなど、監査活動の支援体制を確保します。
  2. 監査役がその職務を執行するうえで必要な費用は、請求により会社は速やかに支払うものとします。
- ⑨ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況
1. 当社は、「シノブグループコンプライアンスに関する基本方針」において、反社会的勢力に対しては断固とした態度で臨む旨を定め、周知徹底をはかります。
  2. 反社会的勢力との関係を遮断するため、取引契約に「暴力団排除条項」を定め、相手が反社会的勢力であることが判明した場合に、関係を速やかに解消する取り組みを行います。

## (6) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社は、基本方針に基づき、当該事業年度では以下の通り内部統制システムを運用しました。なお、当社及び子会社における内部統制システムの整備・運用状況は、内部監査部門がモニタリングを行うとともに、監査役会の監査対象となっています。

### ① コンプライアンス体制への取り組み

コンプライアンス規程に基づき、コンプライアンス意識の向上を目的として、「シノブグループ行動憲章」の周知を継続して行いました。また、役員に対しては役員として遵守すべき事項、幹部社員に対してはコンプライアンスを題材とする研修を行いました。働きやすい職場環境の改善を目的とした労務担当者会議において労働時間などの法令遵守状況や従業員の定着率、障がい者雇用の状況について確認を行いました。

### ② リスク管理体制への取り組み

リスク管理委員会において、当社グループに関するリスクの識別、評価を行い、重点リスクへの対応方針を決定しました。当期においては、引き続き新型コロナウイルス感染症に関し、当社における感染予防措置を徹底しました。また、自然災害発生時における事業所の安全体制、供給先との連携体制などを確認いたしました。

また、情報機器へのサイバー攻撃への対応として、防御ソフトの導入や従業員に対し有事における初期対応の教育を実施いたしました。

### ③ 職務執行体制への取り組み

取締役会は、中期経営計画の進捗状況について定期的に報告を受け、事業環境等を確認しながら対応を検討しております。毎月開催する経営会議においては、重要な業務執行について執行役員が多面的に検討を行い、社長の権限の範囲内で迅速な意思決定を行うとともに、中期経営計画の基本戦略への取り組み状況について執行役員から報告を受け、目標に対する進捗を確認しています。

### ④ 監査役の監査体制への取り組み

監査役は、取締役会をはじめ経営会議やリスク管理委員会など社内の重要な会議に出席して審議内容を確認するとともに、内部監査部門が実施する工場等への往査（リモート含む）に同席し、製造、開発、営業部門等に対するヒアリングを行い、問題点を各本部と共有し改善を求め、また四半期毎に開催する会計監査人の監査報告会には、内部監査部門のほか、社外取締役も出席し意見交換や、情報共有を図っております。

### ⑤ 反社会的勢力排除に向けた取り組み

反社会的勢力排除については、「シノブグループコンプライアンスに関する基本方針」のなかで継続して取り組むとともに、当期は不当要求の際の対応マニュアルを作成し、各事業所への配布と周知を行いました。

## (7) 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。



## 連結貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>12,660</b>	<b>流動負債</b>	<b>9,544</b>
現金及び預金	6,633	買掛金	3,955
売掛金	5,519	一年内返済予定の長期借入金	1,892
商品及び製品	30	未払金	2,284
原材料及び貯蔵品	269	未払法人税等	422
その他	209	賞与引当金	330
貸倒引当金	△1	その他	659
<b>固定資産</b>	<b>17,721</b>	<b>固定負債</b>	<b>6,805</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>16,985</b>	長期借入金	6,650
建物及び構築物	7,809	退職給付に係る負債	64
機械装置及び運搬具	2,776	その他	90
工具器具及び備品	340	<b>負債合計</b>	<b>16,350</b>
土地	6,009	<b>(純資産の部)</b>	
リース資産	7	<b>株主資本</b>	<b>13,931</b>
建設仮勘定	43	資本金	4,693
<b>無形固定資産</b>	<b>131</b>	資本剰余金	3,032
<b>投資その他の資産</b>	<b>604</b>	利益剰余金	6,871
投資有価証券	0	自己株式	△665
繰延税金資産	303	その他の包括利益累計額	18
その他	303	その他有価証券評価差額金	△0
貸倒引当金	△2	退職給付に係る調整累計額	18
<b>資産合計</b>	<b>30,381</b>	<b>新株予約権</b>	<b>76</b>
		<b>非支配株主持分</b>	<b>4</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>14,031</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>30,381</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	51,047
売上原価	43,989
売上総利益	7,057
販売費及び一般管理費	5,181
営業利益	1,876
営業外収益	
受取利息配当金	32
助成金収入	13
その他	27
営業外費用	
支払利息	42
その他	3
経常利益	1,904
特別利益	
保険解約益	28
補助金収入	10
新株予約権戻入益	9
特別損失	
減損損失	1,473
固定資産除却損	9
税金等調整前当期純利益	470
法人税、住民税及び事業税	488
法人税等調整額	△121
当期純利益	103
非支配株主に帰属する当期純利益	0
親会社株主に帰属する当期純利益	103

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
2022年4月1日現在の残高	4,693	3,028	7,034	△689	14,067
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△265		△265
親会社株主に帰属する当期純利益			103		103
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		3		23	27
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	3	△162	23	△135
2023年3月31日現在の残高	4,693	3,032	6,871	△665	13,931

	その他の包括利益累計額			新 株 予 約 権	非 支 配 株 持 主 分	純 資 産 合 計
	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計			
2022年4月1日現在の残高	△0	43	43	74	4	14,190
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当						△265
親会社株主に帰属する当期純利益						103
自己株式の取得						△0
自己株式の処分						27
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	0	△24	△24	2	△0	△22
連結会計年度中の変動額合計	0	△24	△24	2	△0	△158
2023年3月31日現在の残高	△0	18	18	76	4	14,031

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### (1) 連結の範囲に関する事項

すべての子会社（株式会社エス・エフ・ディー及びマイツペーカリー株式会社の2社）を連結の範囲に含めております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

当社には、非連結子会社及び関連会社はありません。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### 1. 有価証券

##### その他有価証券

市場価格のない株式等 時価法によっております。

以外のもの なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法によっております。

##### 2. 棚卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品及び製品 総平均法

原材料及び貯蔵品 総平均法

##### ② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### 1. 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 5～10年

##### 2. リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

### ③ 重要な引当金の計上基準

1. 貸倒引当金 売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
2. 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

### ④ 収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、次の通りであります。

当社及び連結子会社は、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の食品製造卸販売を行っております。このような商品及び製品の販売については、顧客に商品及び製品それぞれを引き渡した時点で収益を認識しております。

### ⑤ その他連結計算書類の作成のための重要な事項

#### 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（6年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

## 2. 収益認識に関する注記

### (1) 収益の分解

当社グループは、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の食品製造卸販売事業を営む単一セグメントであり、販売品目別に分解しております。

製品売上高は50,450百万円、その他売上高は596百万円であります。

### (2) 収益を理解するための基礎となる情報

製品売上高は、顧客からの受注に基づき製造した製品を、顧客に引渡した時点で履行義務が充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。その他売上高は、顧客からの受注に基づき仕入れた商品等を、顧客に引渡した時点で履行義務が充足されると判断し、当該時点で収益を認識しております。物流センターの使用料等の顧客に支払われる対価は、顧客から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き取引価格から減額しております。

### 3. 表示方法の変更に関する注記

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、区分掲記しておりました「営業外収益」の「受取賃貸料」は、営業外収益の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。

### 4. 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

#### (1) 会計上の見積りを示す項目及び見積りの内容

固定資産の減損

#### (2) 当連結会計年度に計上した金額

当社グループは、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の製造卸販売を営むために、土地、建物、機械装置等を有しており、連結貸借対照表に有形固定資産16,985百万円（内土地6,009百万円）を計上しております。

#### (3) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

当社グループでは、有形固定資産2,035百万円（内土地1,192百万円であり、いずれも減損損失計上後の簿価）を有する大阪工場、1,692百万円（内土地382百万円）を有する名古屋工場、1,346百万円（内土地658百万円）を有する千葉工場において、土地の市場価格の著しい下落又は業績の悪化により、減損の兆候が認められております。

減損損失の認識の可否の判定の結果、土地の市場価格の著しい下落が認められた大阪工場において、見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が有形固定資産の帳簿価額を下回ったため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失1,473百万円を計上いたしました。

なお、名古屋工場及び千葉工場においては、見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が有形固定資産の帳簿価額を上回ったことから、減損損失を認識しておりません。

割引前将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる各工場の事業計画は、取締役会において承認された翌期予算及び中期経営計画に基づき、新規取引先の獲得や生産効率については、実績に基づいた一定の仮定を置いた上で見積りを行っております。

しかしながら、市場環境の変化等により見積りで用いた仮定に見直しが必要となった場合、翌連結会計年度において減損損失を認識する可能性があります。

### 5. 追加情報の注記

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢等の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、固定資産の減損会計等の会計上の見積りにおいて、連結計算書類作成時に入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症の影響は、感染症法上の分類変更など経済活動が正常化に向かうことから弱まるものと仮定しており、原材料価格等は、ウクライナ情勢等の影響により高騰・高止まりが翌連結会計年度においても継続するものと仮定して見積りを行っております。

## 6. 連結貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産及び担保にかかる債務

#### ① 担保に供している資産

建	物	3,558百万円
土	地	1,140百万円
計		4,699百万円

#### ② 担保にかかる債務

一年内返済予定の長期借入金	600百万円
長期借入金	2,900百万円
計	3,500百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 17,322百万円

## 7. 連結損益計算書に関する注記

### 減損損失

当社グループの大阪工場の有形固定資産において、土地の市場価格の著しい下落による減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に従って、将来の回収可能性を検討した結果、大阪工場の収益に基づく回収可能価額まで減額し、減損損失1,473百万円を特別損失として計上いたしました。

## 8. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### (1) 当連結会計年度末の発行済株式の種類及び総数

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	13,500,000株	一株	一株	13,500,000株

### (2) 配当に関する事項

#### ① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	142百万円	11円50銭	2022年3月31日	2022年6月24日
2022年11月4日 取締役会	普通株式	123百万円	10円00銭	2022年9月30日	2022年12月5日

- ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

2023年6月22日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
136百万円	11円00銭	2023年3月31日	2023年6月23日	利益剰余金

- (3) 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 50,100株

## 9. 金融商品に関する注記

- (1) 金融商品の状況に関する事項

- ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に米飯や調理パンの製造卸販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。

- ② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。

長期借入金は主に設備投資に必要な資金調達を目的としたものであり、返済日は決算日後最長で6年後であります。

- ③ 金融商品に係るリスク管理体制

1. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、売掛金回収マニュアルに従い、経理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとの期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

2. 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金の金利変動リスクを回避するため、原則として固定金利による借入を実施しております。

3. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、経理部が資金計画を作成し、流動性リスクを管理しております。

- ④ 信用リスクの集中

営業債権のうち50.9%が特定の大口顧客に対するものであります。



(2) 金融商品の時価等に関する事項

2023年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
長期借入金（一年内返済予定を含む）	8,543	8,513	△30
負債計	8,543	8,513	△30

(注) 「現金及び預金」「売掛金」「買掛金」「未払金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(3) 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金 (一年内返済予定を含む)	—	8,513	—	8,513
負債計	—	8,513	—	8,513

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

10. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,125円61銭
- (2) 1株当たり当期純利益 8円33銭

## 貸借対照表

(2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>12,606</b>	<b>流動負債</b>	<b>9,698</b>
現金及び預金	6,579	買掛金	3,956
売掛金	5,519	一年内返済予定の長期借入金	1,892
商品及び製品	30	未払金	2,287
原材料及び貯蔵品	269	未払法人税等	422
その他	208	関係会社預り金	150
貸倒引当金	△1	賞与引当金	330
<b>固定資産</b>	<b>17,673</b>	その他	658
<b>有形固定資産</b>	<b>16,985</b>	<b>固定負債</b>	<b>6,832</b>
建物	7,238	長期借入金	6,650
構築物	570	退職給付引当金	91
機械装置	2,774	その他	90
車両運搬具	1	<b>負債合計</b>	<b>16,531</b>
工具器具及び備品	340	<b>(純資産の部)</b>	
土地	6,009	<b>株主資本</b>	<b>13,671</b>
リース資産	7	<b>資本金</b>	<b>4,693</b>
建設仮勘定	43	<b>資本剰余金</b>	<b>3,032</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>131</b>	資本準備金	1,173
<b>投資その他の資産</b>	<b>557</b>	その他資本剰余金	1,858
投資有価証券	0	<b>利益剰余金</b>	<b>6,611</b>
関係会社株式	17	その他利益剰余金	6,611
繰延税金資産	311	圧縮記帳積立金	43
その他	230	繰越利益剰余金	6,568
貸倒引当金	△2	<b>自己株式</b>	<b>△665</b>
<b>資産合計</b>	<b>30,279</b>	<b>新株予約権</b>	<b>76</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>13,748</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>30,279</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		51,047
売上原価		43,991
売上総利益		7,055
販売費及び一般管理費		5,180
営業利益		1,875
営業外収益		
受取利息配当金	35	
助成金収入	13	
その他	25	74
営業外費用		
支払利息	43	
その他	2	46
経常利益		1,903
特別利益		
保険解約益	28	
補助金収入	10	
新株予約権戻入益	9	48
特別損失		
減損損失	1,473	
固定資産除却損	9	1,482
税引前当期純利益		469
法人税、住民税及び事業税	487	
法人税等調整額	△121	365
当期純利益		103

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2022年4月1日から  
2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本						
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	その他利益剰余金		利益剰余金 合 計
				圧縮記帳 積立金	繰越利益 剰余金		
2022年4月1日現在の残高	4,693	1,173	1,854	3,028	46	6,727	6,774
事業年度中の変動額							
剰余金の配当						△265	△265
圧縮記帳積立金の取崩					△2	2	－
当期純利益						103	103
自己株式の取得							
自己株式の処分			3	3			
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)							
事業年度中の変動額合計	－	－	3	3	△2	△159	△162
2023年3月31日現在の残高	4,693	1,173	1,858	3,032	43	6,568	6,611

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本 合 計		
2022年4月1日現在の残高	△689	13,807	74	13,881
事業年度中の変動額				
剰余金の配当		△265		△265
圧縮記帳積立金の取崩		－		－
当期純利益		103		103
自己株式の取得	△0	△0		△0
自己株式の処分	23	27		27
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)			2	2
事業年度中の変動額合計	23	△135	2	△132
2023年3月31日現在の残高	△665	13,671	76	13,748

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

## 1. 重要な会計方針にかかるとする事項に関する注記

## (1) 資産の評価基準及び評価方法

- ① 子会社株式 移動平均法による原価法によっております。
- ② その他有価証券  
市場価格のない株式等 時価法によっております。  
以外のもの なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。
- 市場価格のない株式等 移動平均法による原価法によっております。
- ③ 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。  
商品及び製品 総平均法  
原材料及び貯蔵品 総平均法

## (2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産 定率法によっております。  
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。  
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。  
建 物 15～50年  
機械装置 5～10年
- ② リース資産 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- ③ 無形固定資産 定額法によっております。

## (3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金 売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支払に備えるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（6年）による定額法により翌事業年度から費用処理しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は、次の通りであります。

当社は、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の食品製造卸販売を行っております。このような商品及び製品の販売については、顧客に商品及び製品それぞれを引き渡した時点で収益を認識しております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## 2. 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報は、連結注記表「2. 収益認識に関する注記」に同様の内容を記載しているため、注記を省略しています。

### 3. 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

(1) 会計上の見積りを示す項目及び見積りの内容

固定資産の減損

(2) 当事業年度に計上した金額

当社は、弁当、おにぎり、調理パン、寿司及び惣菜等の製造卸販売を営むために、土地、建物、機械装置等を有しており、貸借対照表に有形固定資産16,985百万円（内土地6,009百万円）を計上しております。

(3) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

当社では、有形固定資産2,035百万円（内土地1,192百万円であり、いずれも減損損失計上後の簿価）を有する大阪工場、1,692百万円（内土地382百万円）を有する名古屋工場、1,346百万円（内土地658百万円）を有する千葉工場において、土地の市場価格の著しい下落又は業績の悪化により、減損の兆候が認められております。

減損損失の認識の要否の判定の結果、土地の市場価格の著しい下落が認められた大阪工場において、見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が有形固定資産の帳簿価額を下回ったため、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失1,473百万円を計上いたしました。

なお、名古屋工場及び千葉工場においては、見積った割引前将来キャッシュ・フローの総額が有形固定資産の帳簿価額を上回ったことから、減損損失を認識しておりません。

割引前将来キャッシュ・フローの見積りの基礎となる各工場の事業計画は、取締役会において承認された翌期予算及び中期経営計画に基づき、新規取引先の獲得や生産効率については、実績に基づいた一定の仮定を置いた上で見積りを行っております。

しかしながら、市場環境の変化等により見積りで用いた仮定に見直しが必要となった場合、翌事業年度において減損損失を認識する可能性があります。

### 4. 追加情報の注記

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢等の影響に関する会計上の見積り）

当社は、固定資産の減損会計等の会計上の見積りにおいて、計算書類作成時に入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症の影響は、感染症法上の分類変更など経済活動が正常化に向かうことから弱まるものと仮定しており、原材料価格等は、ウクライナ情勢等の影響により高騰・高止まりが翌事業年度においても継続するものと仮定して見積りを行っております。

## 5. 貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産及び担保にかかる債務

#### ① 担保に供している資産

建	物	3,558百万円
土	地	1,140百万円
計		4,699百万円

#### ② 担保にかかる債務

一年内返済予定の長期借入金	600百万円
長期借入金	2,900百万円
計	3,500百万円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 17,322百万円

### (3) 関係会社に対する金銭債権、債務

① 短期金銭債権	0百万円
② 短期金銭債務	153百万円

## 6. 損益計算書に関する注記

### (1) 関係会社との取引高

① 営業取引の取引高	12百万円
② 営業取引以外の取引高	3百万円

### (2) 減損損失

当社大阪工場の有形固定資産において、土地の市場価格の著しい下落による減損の兆候が認められたことから、「固定資産の減損に係る会計基準」に従って、将来の回収可能性を検討した結果、大阪工場の収益に基づく回収可能価額まで減額し、減損損失1,473百万円を特別損失として計上いたしました。

## 7. 株主資本等変動計算書に関する注記

### 自己株式の数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,146,069株	20株	39,500株	1,106,589株

#### (変動事由の概要)

増加の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 20株

減少の内訳は、次のとおりであります。

新株予約権の行使による減少 39,500株



## 8. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
未払事業税等	37百万円
賞与引当金	100百万円
退職給付引当金	27百万円
減損損失	450百万円
新株予約権	23百万円
その他	72百万円
繰延税金資産小計	<u>712百万円</u>
評価性引当額	<u>△378百万円</u>
繰延税金資産合計	<u>334百万円</u>
繰延税金負債	
圧縮記帳積立金	19百万円
その他	3百万円
繰延税金負債合計	<u>22百万円</u>
繰延税金資産の純額	<u><u>311百万円</u></u>

## 9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,103円14銭
(2) 1株当たり当期純利益	8円34銭

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2023年5月12日

シノプフーズ株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ  
大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 千 崎 育 利

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 井 秀 吏

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、シノプフーズ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シノプフーズ株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが

適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
  - ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
  - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
  - ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
  - ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
  - ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2023年5月12日

シノブフーズ株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ  
大 阪 事 務 所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 千 崎 育 利

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 井 秀 吏

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、シノブフーズ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第53期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を

作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年4月1日から2023年3月31日までの第53期事業年度の取締役の職務執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役および監査役会の監査の方法およびその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況および結果について報告を受けるほか、取締役等および会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、電話回線又はインターネット等を経由した手段も活用しながら、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通をはかり、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議にオンライン形式で出席し、取締役および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社および主要な事業所に関して業務および財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、当社の取締役会において担当取締役から事業の状況の報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他株式会社およびその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項および第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容および当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役および使用人等からその構築および運用の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、また、内部監査部門から定期的に報告を受け、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視および検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2021年11月16日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。なお、監査上の主要な検討事項については、会計監査人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告およびその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書および個別注記表）およびその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書および連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容および取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法および結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任監査法人トーマツの監査の方法および結果は相当であると認めます。

2023年5月15日

シノブフーズ株式会社 監査役会

常勤監査役 大塚 一 樹 ㊞

社外監査役 野村 祥 子 ㊞

社外監査役 南 方 得 男 ㊞

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

当社は、中長期的な企業価値の向上のために、生産設備などの成長投資と財政基盤の強化のための内部留保を確保したうえで、株主の皆さまへの利益配当を安定かつ継続的に行うことを基本方針としております。

この方針のもと、当期の期末配当は、普通配当11円とさせていただきたく存じます。なお、中間配当として10円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株当たり21円となります。

(1) 配当財産の種類	金銭
(2) 配当財産の割当てに関する事項 及びその総額	当社普通株式1株につき金11円 配当総額 136,327,521円
(3) 剰余金が効力を生じる日	2023年6月23日



## 第2号議案 取締役2名選任の件

本総会終結の時をもって取締役長尾正史、加藤道彦の両氏が任期満了となりますので、取締役2名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
1	長尾正史 (1964年3月30日生)	<p>1990年8月 監査法人トーマツ 入所 (現 有限責任監査法人トーマツ)</p> <p>2011年8月 当社入社 管理本部経理部部长</p> <p>2015年4月 当社 執行役員管理本部副本部長</p> <p>2015年6月 当社 取締役執行役員 管理本部副本部長 (現任)</p> <p>2016年6月 株式会社エス・エフ・ディー 代表取締役社長 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況) 株式会社エス・エフ・ディー 代表取締役社長 (取締役候補者とした理由および期待される役割の概要) 長尾正史氏は、公認会計士としての会計及び財務に関する専門的な知識と経験を当社管理本部の責任者として遺憾なく発揮し、管理本部副本部長として職務遂行しております。今後の当社の発展にさらに寄与すると期待されることから、引き続き、取締役として選任をお願いするものであります。</p>	13,705株
2	加藤道彦 (1947年7月2日生)	<p>1972年4月 株式会社ワコール 入社 (現 株式会社ワコールホールディングス)</p> <p>1998年6月 取締役総務部長</p> <p>2001年4月 取締役社長室長兼総務部長</p> <p>2003年4月 取締役コーポレート・コミュニケーション部門担当</p> <p>2004年6月 常勤監査役</p> <p>2013年4月 大阪樟蔭女子大学大学院 教授</p> <p>2015年6月 当社 取締役 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況) 該当事項なし (社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要) 加藤道彦氏は、会社経営に携わられてきた豊富な経験と大学院教授の経験等に基づく、高い見識を有しており、社外取締役として、客観的な経営の監督が遂行できていると判断し、今後も、同様の役割を担いまた重要な意思決定に参画いただくことを期待し、引き続き、社外取締役として選任をお願いするものであります。</p>	1,725株

- (注) 1. 各取締役候補者の保有する当社株式は、2023年3月31日現在の役員持株会を通じて各候補者が実質的に保有する株式数を含めて記載しております。
2. 加藤道彦氏は社外取締役候補者であります。
3. 加藤道彦氏の社外取締役の在任期間は、本総会終結の時をもって8年であります。
4. 各取締役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
5. 当社は、加藤道彦氏との間で、会社法第427条第1項の損害賠償責任について、法令の定める限度額まで限定する契約を締結しており、同氏の再任が承認された場合は、同氏との間で当該契約を継続する予定であります。
6. 加藤道彦氏が社外取締役として選任された場合、東京証券取引所の定める独立役員となる予定であります。
7. 当社は取締役、監査役に関し、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、各候補者の再任が承認された場合は、各氏は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しており、保険の内容は、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害及び経済的損失を填補するものであります。なお、保険料は全額会社が負担しております。

【ご参考】取締役のスキルマトリックス (第2号議案が承認された場合)

	男性■ 女性□	独立性 (社外のみ)	経営 全般	販売	製造	人財 開発	財務 会計	リスク管理 法務
松本 崇志	■		●	●	●			
西村 寿清	■		●	●	●			
清水 秀輝	■					●		●
長尾 正史	■						●	●
加藤 道彦	■	●	●			●		●
中野 由里	□	●				●	●	

**第3号議案 監査役3名選任の件**

監査役全員（3名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
1	お お っ か か ず き 大 塚 一 樹 (1966年12月21日生)	1990年4月 株式会社三菱銀行 入行(現 株式会社三菱UFJ銀行) 2002年8月 上海支店 支店長代理 2013年5月 長野支社長 2015年10月 法人・リテール リスク統括部 次長 2019年3月 当社 監査部長 2019年6月 当社 常勤監査役(現任) (重要な兼職の状況) 該当事項なし (監査役候補者とした理由) 大塚一樹氏は、大手金融機関での職務により培われた専門的知識と、リスク管理の経験も有しておられることから、当社の経営について、客観的・中立的な監査を行い、また監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断したためであります。	862株
2	の む 村 ら さ 祥 ち こ 野 村 祥 子 (1973年12月31日生)	2000年4月 堂島法律事務所入所(現任) 弁護士登録 2018年1月 株式会社ビーアンドピー 社外監査役(現任) 2019年6月 当社 社外監査役(現任) 2020年6月 株式会社島精機製作所 社外取締役(監査等委員)(現任) 2022年1月 株式会社神戸物産 社外取締役(監査等委員)(現任) (重要な兼職の状況) 堂島法律事務所 弁護士 株式会社島精機製作所 社外取締役(監査等委員) 株式会社神戸物産 社外取締役(監査等委員) 株式会社ビーアンドピー 社外監査役 (社外監査役候補者とした理由) 野村祥子氏は、弁護士としての豊富な経験及び他社の社外役員の経験など、高い見識を有しておられることから、当社の経営について、客観的・中立的な監査をしていただけるものと判断した為であります。 なお、同氏は、過去において社外役員になること以外の方法で、企業経営に関与した経験はありませんが、当社としては上記の理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。	862株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
3	みなかたとくお 南方得男 (1963年1月18日生)	<p>1985年4月 監査法人サンワ東京丸の内事務所 入所 (現 有限責任監査法人トーマツ)</p> <p>1987年3月 公認会計士登録</p> <p>2000年5月 監査法人トーマツ パートナー (現 有限責任監査法人トーマツ)</p> <p>2018年7月 みなかた公認会計士事務所代表 (現任)</p> <p>2019年6月 当社 社外監査役 (現任)</p> <p>(重要な兼職の状況) みなかた公認会計士事務所代表 (社外監査役候補者とした理由) 南方得男氏は、公認会計士としての会計及び税務に関する専門的な知識と経験を有しておられることから、当社の経営について、客観的・中立的な監査をしていただけることを期待し、社外監査役として選任をお願いするものです。なお、同氏は、直接企業経営に関与した経験はありませんが、当社としては上記の理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。</p>	862株

- (注) 1. 各監査役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 野村祥子氏、南方得男氏は、社外監査役候補者であります。
3. 当社は、大塚一樹氏、野村祥子氏、南方得男氏との間で、会社法第427条第1項の損害賠償責任について、法令の定める限度額まで限定する契約を締結しており、3氏の再任が承認された場合は、当該契約を継続する予定であります。
4. 野村祥子氏、南方得男氏が社外監査役に選任された場合、東京証券取引所の定める独立役員となる予定であります。
5. 野村祥子氏、南方得男氏の社外監査役の在任期間は、本総会終結の時をもって4年であります。
6. 当社は取締役、監査役に関し、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、各候補者の再任が承認された場合は、各氏は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しており、保険の内容は、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害及び経済的損失を填補するものであります。なお、保険料は全額会社が負担しております。

第4号議案 補欠監査役2名選任の件

監査役が法令で定める員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠監査役2名の選任をお願いするものであります。当該補欠監査役候補者のうち、浅井一夫氏は社外監査役以外の監査役の補欠の監査役として、森村圭志氏は社外監査役の補欠の監査役として、それぞれ選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。


候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
1	あさい かずお 浅井一夫 (1959年12月30日生)	1989年12月 当社入社 1995年3月 当社 総務部 2013年4月 当社 監査部課長(現任) (補欠監査役候補者とした理由) 浅井一夫氏は、長年にわたる総務部門や監査部門の豊富な経験・見識を鑑み、監査役の員数を欠くことになった際には、社外監査役以外の監査役として適任であり、補欠監査役候補者としております。	3,000株
2	もりむらけいし 森村圭志 (1956年9月1日生)	1988年10月 サンワ等松青木監査法人 神戸事務所入所 (現 有限責任監査法人トーマツ) 1993年8月 公認会計士登録 2004年6月 監査法人トーマツ パートナー (現 有限責任監査法人トーマツ) 2021年12月 有限責任監査法人トーマツ退所 2022年1月 森村公認会計士事務所開設 代表(現任) (補欠の社外監査役候補者とした理由) 森村圭志氏は、公認会計士としての会計及び税務に関する専門的な知識と経験を有しておられることから、監査役の員数を欠くことになった際の社外監査役として適任であり、補欠監査役候補者としております。	0株

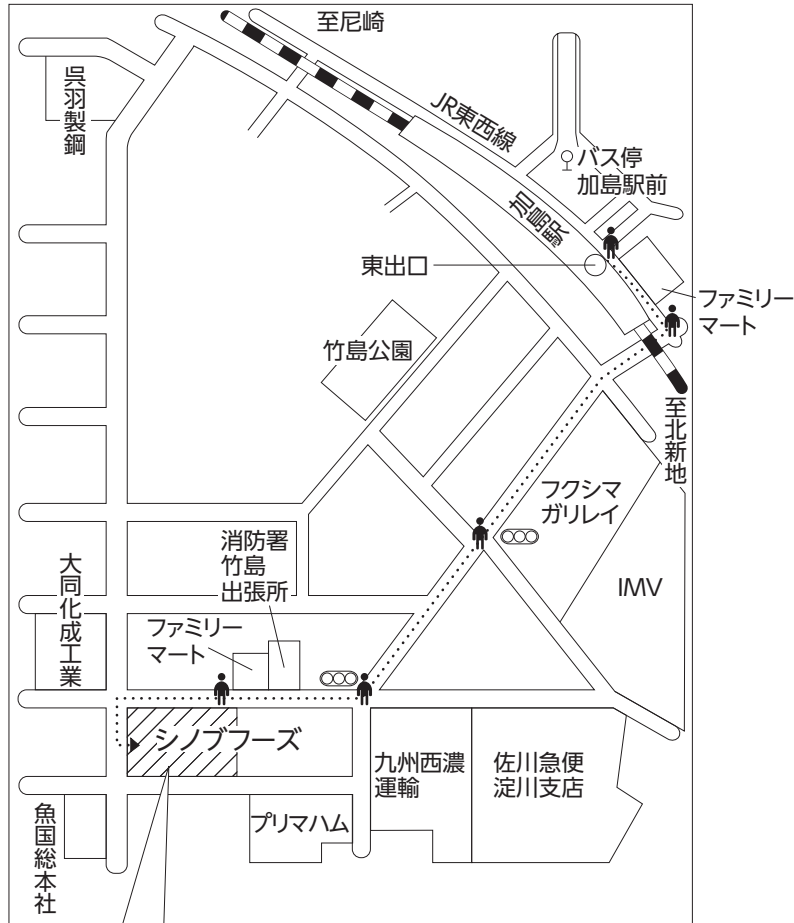
- (注) 1. 各補欠監査役候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。  
2. 各補欠監査役候補者が監査役に就任した場合、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、法令の定める限度額まで限定する契約を締結する予定であります。  
3. 森村圭志氏は、補欠の社外監査役候補者として選任するものであります。なお、同氏が監査役に就任された場合、東京証券取引所の定める独立役員となる予定であります。  
4. 当社は取締役、監査役に関し、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、各補欠監査役候補者が監査役に就任した場合は、各氏は当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しており、保険の内容は、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害及び経済的損失を填補するものであります。なお、保険料は全額会社が負担しております。

以上

# 株主総会会場ご案内図

J R東西線加島駅より徒歩約7分  
大阪市バス（97系統）加島駅前バス停より徒歩約7分  
(お願い)会場にお越しの際は、駐車場に限りがございますので、恐れ入りますが、公共交通機関をご確認のうえご利用ください。

 マークの場所に、弊社社員がご案内させていただいておりますので  
お気軽にお尋ねください。



大阪市西淀川区竹島2丁目3番18号  
シノプフーズ 株式会社 本社  
代表電話 06-6477-0113